

国語

(2024)

- (注意事項)
- 1 問題文は26ページあります。
 - 2 解答は解答用紙の所定欄に記入してください。下書きは、問題冊子の余白を利用してください。ただし、回収はしませんので採点の対象とはなりません。
 - 3 解答はすべてマークセンス方式となっていますので、解答用紙の注意事項をよく読み解答してください。
 - 4 受験番号・氏名・フリガナは、監督者の指示に従って、解答用紙の所定欄に丁寧に記入してください。
 - 5 解答用紙にマークセンス方式の受験番号欄があります。受験番号をマークする際は濃く丁寧にぬってください。
 - 6 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。

一 次の文章は、国内外の文学作品の書評をもとに執筆されたものである。この文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

わたしは古典文学にしろ現代小説にしろ、ただちに実益にならないものを人間が読むのは、「宙つりの時間」^①を楽しむためだと思っている。ミス
テリ小説では、最後に問題の答えを出したり、事件を解決したりすることが多いし、社会派小説などには、政治的声明を出したり、告発を行うよう
なものもある。しかし明確な結末や結論をもたない小説も多い。

Amazonのカスタマーレビューなどを覗くと、芥川賞受賞作のほとんどには、「作者がなにを言いたいのかわからなかった」「この小説になにか意
味があるのか」といったレビューが付いている。人は往々にして、解決をつけないままに耐えきれなくなる。

しかし最近では、「ネガティブ・ケイパビリティ（消極的受容力）」という力が注目されている。もともとはイギリス後期ロマン派の詩人ジョン・
キーツが考案した言葉だが、判断を保留し、宙ぶらりんのまま考えつづける力のことだ。日本では、臨床精神科医であり作家の帯木蓬生の『ネガ
ティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』もよく読まれている。

すぐにポジティブ（積極的）に答えを出さない、断定しすぎないこと。それは多様性へのホウセツ力や多元共存のあり方にもつながるだろう。好
景気を背景に、即決即断力が大いに称えられた時代は、今は昔なのだ。

「釘子戸」^②という、土地開発の立ち退きに断固抗う民家を指す中国語があるそうだ。オデルの『何もしない』は、この頑固な姿勢に倣おうとユー
モラスに宣言する。ネット空間には拡散速度が高い発信ほどお金になる構造があり、即時反応させるデザインになっている。そうして「Twitterや
FacebookやInstagramなどのソーシャル・メディアは目先の興味で引きつけ、わたしたちがじっくり考えようとする時間を奪いあう。

『何もしない』には、古今東西の「抵抗する人びと」が紹介されている。

たとえば、あるとき、デトロイトの大手会計事務所のマーケティング部に、奇妙な研修生が現れた。まわりが忙しく働くなか、彼女はひたすら空
を見つめ、働こうとしない。この何もしない人物は社内に動揺と脅威をもたらす。彼女の行動はあるアーティストによる〈研修生〉というパフォー
マンス作品だったと後でわかるのだが、現代人は何もしないこと、何も生産性をもたないことに、恐怖に似た感覚を覚えるようだ。

SNSはそこにつけこんで、生産性を高めよと追い立てながら人の思考と時間を a させ、クリックごとに企業にお金を流す。そのため
に賛同者の数が可視化され、リプライがあれば即通知が届き、「話題のトピック」がツねに表示される。ユーザーは何か見逃したのではないかとい
うFOMO (fear of missing out=取りこぼし恐怖) に襲われた挙句、「他人の現実」を生きるようになってしまう。

巨大なIT企業が集まるシリコンバレーで働く両親のもとに育ったオデルは、反テクノロジー派や強硬なナチュラリストではない。SNSの魔の手から離れることで得られるのは、一つはセルフメンテナンスであり、もう一つは他者の視点をもつこと。つまり、アテンション・エコノミーの操作や洗脳から抜け出し、むしろ主体的に思考することで初めて、他者と出会えるということだ。

そうした主体的思考を取り戻すには、自然回帰や、哲学・文学に触れることは有用だとオデルは言い、多様な思想家や文学者からの言葉を引いてくる。良心に基づく市民的不服従を唱えたデイヴィッド・ソロー、『人間の条件』で全体主義に抵抗したハンナ・アーレント、古代の抵抗アーティストとも言うべきディオゲネス、歴史に瓦礫の山を見たヴァルター・ベンヤミン、『我と汝』の著者マルチン・ブーバーなど。

そうして多彩な言葉が引用されるが、おもしろいのはアメリカ十九世紀の作家ハーマン・メルヴィル（あの『白鯨』の原作者）が書いた『書記バートルビー』という中編小説の例だ。主人公バートルビーは職場で何を頼まれても、「しないほうがよろしいのです」と答えて、拒絶と受諾の谷間に上司を落とし入れ、それでいて仕事を辞めるでもない。この困った人物はなぜか魅惑的だ。こうしてイエス・ノーで白黒をつけず、「第三の空間」で考え続ける潜勢力をオデルは強調する。

ちなみに、オデルが最後に行き着くのは、自然農法を提唱した日本人農学者・福岡正信である。

「速い」情報消費やアテンション・エコノミーに抗うと宣言する紙の雑誌「モノノメ」が、二〇二二年に日本で創刊されたのも、早逝の米国作家デヴィッド・フォスター・ウォレスによる今世紀初頭の大学卒業式でのスピーチ『これは水です』が今また読者を引きつけているのも、偶然ではないだろう。ネットの速くて強い言葉に煽られることへの倦厭感が形をとりだしている。ウォレスが説くのは一つに、頭に刷りこまれたものを問い直すことだ。

思えば、二〇二一年のノーベル文学賞なども、これほどアテンション・エコノミーから縁遠いものもなかったろう。受賞者はアブドゥルラザク・グルナ。ザンジバル島（現タンザニア）に生まれ、十七歳で革命難民として渡英したアフリカ系イギリス作家だ。欧米の作家でこれまで大きな国際文学賞の受賞歴なく同賞を授与された例は、今世紀ではごく稀である。

その前年二〇二〇年のアメリカ詩人ルイーズ・グリユックへの授賞も、作品の本質をつきつめた結果だろう。平易な語彙で日常を綴るその詩を初めて読んだ時、わたしは戦慄した。夫婦が浜辺に黙座するうち、潮の満ち引きのまにまにアイゾウ(1)が去来したり、少女が列車に乗りこむほんの一瞬に、女性の一生が照射されたりする。受賞を機に『野生のアイリス』、『アヴェルノ』などの邦訳が出版されるようになったのは喜ばしい。

草花溢れる庭を舞台にした詩集『野生のアイリス』は、グリユックが「二年間一篇の詩も書けなかった、詩人として長く辛い沈黙の後にやってき

た」と訳者はあとがきに書いている。

表題作は「苦しみの果てに／扉があった」と始まる。そして、自然との、神との、対話。あるとき神は怒っているようだ。「わたしはあらゆる贈り物をした、／春の朝の青、／お前たちがその使い方を知らなかった時間——」。またあるときは、クローバーから抗議があり、朝顔が現し世に生きる人間の罪と苦しみを代弁するようにも見える。

文学は即効薬ではない。愛と訣別、失望と希望、死と再生をめぐる、遅効性の言葉がここにはある。

読者の判断が全体に「速く」なっているのは、アテンション・エコノミーの仕掛けによるものだけではないだろう。その背景にあるのは、一種の「共感シジョウ主義」のようなものだ。

近年、わたしは「外国文学のお勧め」を学生などに尋ねられると、「自分からちよつと遠いなあと感じるものを選ぶとすよ」と答えることがある。読書を他者や未知との出会いの場ではなく、自らの知識や体験のツイーンとして行う人が、昨今増えているように思うからだ。紙媒体にもネットにも、作者や主人公が自分と「近い」から信頼できる、共感した、だから作品を評価するという均質な感動が溢れている。

こうした現象は英米でも同じらしい。リレータブル (relatable) という語の批評における濫用が長らく指摘されてきた。「関連づけられる」などを意味していたこの語は一九四〇年代に初めて教育業界誌で「親しみのもてる」「身近に感じる」という意味で使われるようになった。これが一般にも広がり、今世紀のゼロ年代には、オンラインメディアの運営会社「BuzzFeed」がrelatableというタグを乱発するようになり、「親近感がわく」「あるある」「私の物語だ」という特定の意味で使われることが爆発的に増えたという。

こうして、^③親近型読書^④が盛り上がるほど、自分から遠く感じるものには関心をもたない読者が増えてしまった。二〇二二年にも、アジア系少女を主人公にした米国ピクサーアニメ映画の「私ときどきレッツサーパンダ」に、白人男性の映画業界人が「自分と関係ない話」という趣旨の評を投稿して炎上したことがある。

「ニューヨーカー」誌のコラムニスト、レベッカ・ミードの論考が印象深い。かつての読者は自分とかけ離れた設定や人物の物語に飛び込んでいつて自己同一化し、そこに自分の姿を映しだして楽しむということをしたという。これは少なくとも能動的な知的活動だが、近年の「親近型読書」は本の中に自分の似姿を見つけて記録する「自撮り」のようなものになってしまっていると比較したのだ。この論考はその後のリレータブル論争に大きな影響を与えた。

これは、シンパシーとエンパシーの違いとして理解できるのではないか。ミードのいう読書の前者がエンパシーを発動する読書であるのに対し、

後者はシンパシーによって成り立っている。この二語はよく混同して使われているが、もともとの意味はだいぶ違う。sympathyが「共感する、思いを一にする」ということなら、empathyは「b」ということだ。

村田沙耶香は『信仰』の著者インタビュで「速度の速い正しさは怖い」と述べた。それは共感ひとつでみるみる伝播^{でんぱ}していく一義的な「正義」に対する恐れだろう。

人びとは共感しなくても共存できるはずだ。^{〔注二〕}アマンダ・ゴーマンが国民の連帯と同時にそれぞれが異なること、すなわち多様性を強く訴えたのはそのためだ。彼女はテキサスの学校での銃乱射事件の後に発表した詩「痛みへの賛歌」でdiffer（それぞれが異なる）という語を使っている。以下では「多様である」と訳した。

私たちは

多様であるか、滅びるか、

勝ちとるか、試練を重ねるかだ。

そうして、憎しみは絶やせなくても、

憎しみを変えていくことはできる

私たちを生かす愛へと。

それを可能にするのは、自撮り的な共感ではなく、他者への洞察的な理解力なのではないか。

（鴻巣友季子『文学は予言する』より。一部改変・省略）

〔注一〕アテンション・エコノミー——ネット社会で、情報そのものよりも、それに対する人びとの関心、注目度の方が経済的価値を持つという概念。

〔注二〕アマンダ・ゴーマン——一九九八年生まれのアメリカの詩人。バイデン大統領の就任式で自作の詩を朗読したことで、その名を広く知られるようになった。

問一 傍線部(ア)～(エ)のカタカナに該当する漢字と同じ漢字を(傍線を付した部分の漢字表記に)含むものを、次の各群の選択肢①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は(ア) 、(イ) 、(ウ) 、(エ) 。

(ア) ホウセツ

- ① 新たな年のホウフを語った
- ② 彼らは自由ホウニン主義の教育を支持している
- ③ 健康のためにビタミンをセツシユする
- ④ 外部とのセツシヨクを断って生活する

(イ) アイゾウ

- ① 弟子が師よりも優れている旨の評判をシユツランの誉れという
- ② 専門家からはアイマイな回答しか得られなかった
- ③ 美術館で画家のジガゾウを鑑賞した
- ④ 自分をいじめた相手に激しいゾウオを抱いた

(ウ) シジョウ

- ① ゲシの日は一年で一番昼が長い
- ② シカクを取るために勉強している
- ③ 問題点をカジョウ書きにして整理した
- ④ 説明がジヨウウチヨウでわかりにくい

(エ) ツイニン

4

- ① 若かりし頃の幸せな日々をツイオクする
② 昆虫の脚は前・中・後のサンツイある
③ 彼女は極秘の重大なニンムを負っている
④ 彼はニintai強くあきらめない性格だ

問二 傍線部①「宙ぶりの時間」の説明として最も適切なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は

5

- ① 解決がつくまで不安が続く時間
② 現実からしばし逃避する時間
③ すぐに答えを出さずに考え続ける時間
④ 最後の答えに行きつくまで気をもむ時間

問三 傍線部②「倣」と同じ訓読みをする漢字を次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は

6

- ① 競
② 習
③ 願
④ 抗

問四 空欄 a にあてはまる語として最も適切なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は

7

- ① 停止
② 節約
③ 給費
④ 空費

問五 傍線部③「親近型読書」の説明として最も適切なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は

8。

- ① どのような登場人物にも自分の似姿を見つけて記録する読書のこと。
- ② 登場人物に感情移入するあまり作品を現実だと思い込んでしまう読書のこと。
- ③ 自分とかけ離れた登場人物に自己同一化して楽しむ読書のこと。
- ④ 作者や主人公に自分と似た点があることを評価する読書のこと。

問六 空欄 にあてはまる言葉として最も適切なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号

は 。

- ① 他者と自分は無関係だという前提から始まる他者の生き方の尊重
- ② 他者に共感することによってその感情を洞察しようとする努力
- ③ 他者と感情を共有することなくその気持ちを洞察する知的活動
- ④ 他者を自分に引きつけてその気持ちを想像しようとする姿勢

問七 次のア～オの各文について、その内容が筆者の立場と合致する場合には①を、合致しない場合には②を、それぞれマークしなさい。解答

番号はア― 10、イ― 11、ウ― 12、エ― 13、オ― 14。

ア ネガティブ・ケイパビリティという考え方は、即決即断を評価することにつながっている。 10

イ SNSは、何もしないことに恐怖を持つ現代人の感覚につけこんで、生産性を高めるように追い立てている。 11

ウ ルーズ・グリュックの詩は、日常を綴るものであるが、何気ない場面が深い思索につながっている。 12

エ 一九四〇年代ごろから、自分から遠く感じるものに関心を持たない読者が増えるようになった。 13

オ 多様な価値観の人々が共存するためには、他者に深く共感する力を伸ばしていくべきである。 14

二 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

耳の人、ラフカディオ・ハーン、しかし彼は、例えばモースの^{〔注二〕}ように、街中の種々さまざまな奇妙な音のコレクターではない。彼の横浜到着直後の印象記「東洋の土を踏んだ日」には、ほとんど音の描写はない。西成彦氏の指摘にもあるように、それはこの作品の最後を除いて、ほとんど^{〔注一〕} a 的映像のみで進行していく。人力車から目に入る「小さな妖精の国」、青い屋根の小さな家、青い着物を着て笑っている小さい人々。下駄の音などへのわずかな言及はあるにしても、もっぱら色や形の世界が再現され、音のほとんど聞こえてこない世界が展開されていく。音がはっきりと記されるのは、このエッセイの最後、ホテルでの夜、通りから聞こえてくる女性の^{〔注三〕}按摩の声と笛の音のみである。

「あんまーかみしもーごーひやくもん」

夜の中から女の声が響いてくる。一種特別なるわしい節をつけて唱えられるその文句は、一語一語、開け放った部屋の窓から、笛のさざ波立つ音のように流れ込んでくる。(…)

「あんまーかみしもーごーひやくもん」

この長いうるわしい呼び声の合間合間に、^{〔七〕} 決^{きま}つてうら悲しい笛の音が入る。長く一節吹いた後、調子を変えた短かい二節が続く。(仙北谷晃一 訳)

女の按摩の声(女性の声であることにはまず注意しておく必要がある)と笛、ハーンのその後の日本滞在を決定づける音である。そこにはすでに「うら悲しい」などハーンにとって日本の一つの^{〔八〕}キチヨウとなる形容詞がみえる。さらにここで注意すべきことは、こうした音をはっきりと聴き取るのは、夜という場を背景にしたとき、初めて可能になるということである。夜に ^{〔九〕} b が鋭敏になることは当然かもしれないが、ともかく、今引用した按摩の声と笛が、夜、急にハーンの耳を強く捉えるのである。音、声に関しては、昼間の ^{〔十〕} c 的小ささは別の、もっと大きく強いものがある。ハーンはこう感じる。

「神々の国の首都」、目覚めるときから眠りにつくまでの松江の一日の推移を、土地にまつわる言い伝えなどをしばしば挟みながら、印象派風にスケッチしたこのエッセイでも、ハーンの耳は敏感に働く。冒頭部、まだ未明の時刻、一日のスタートは音によって感知される。

松江の一日で最初に聞こえる物音は、ゆるやかで大きな脈搏みやくはくが脈打つように、眠っている人のちようど耳の下からやって来る。それは物を打ちつける太い、やわらかな、にぶい音であるが、その規則正しい打ち方と、音を包み込んだような奥深さと、聞こえるというより寧ろむじ感じられるように枕を伝わって振動がやって来る点で、心臓の鼓動に似ている。それは種を明かせば米搗つききの重い杵きねが米を精白するために搗き込む音である。(森亮訳)

音がまず謎として提示され、後にそれが種明かしされるという読者を引き込むための口チくちの手法注四とも共通しよう。とにかく、松江の夜明けをもつばら d に頼りながらハーンは描写していく。土地とそこから目覚めていくものとの関係が、母体と胎児の関係にも似て、もつばら音を通して語られていく。心臓の鼓動を思わせる杵の音、「実際それはこの国が脈打つ鼓動そのもの」であり、「杵が臼を打つ規則的な、にぶく鳴り響く音こそは日本人の生活から生まれる物音のうち最も哀感を誘うもの (pathetic)」であるとハーンは書く。

この中心の音に続いて、周囲からのさまざまな物音が耳に入ってくる。

それから禅宗の洞光寺とうこうじの大鈞鐘たいこんしゆがゴーン、ゴーンという音を町の空に響かせる。次に私の住む家に近い材木町の小さな地藏堂から朝の勤行ごんぎやうの時刻を知らせる太鼓の物悲しい (melancholy) 響ひびきが聞こえてくる。そして最後には朝一番早い物売りの呼び声が始まる。「大根だいこんやい、蕪かぶや蕪」と大根そのほか見慣れぬ野菜類を売り回る者、そうかと思えば「もや、もや」と悲しげな (plaintive) 呼び声は炭火をつけるのに使う細い薪の束を売る女たちである。

未明とはいえ、朝の音風景の伝えるニュアンスは、ロチやモースとは相当違う。その物音には「物悲しい」「悲しげ」という形容詞がつけられ、朝の快活さとは別のインエイ(1)を帯びている。モースが聴く陽気で賑やかな物売りとは対照的であり、女の声、物悲しさという点からいえば、先ほどの按摩の声と共通することがわかる。

こうした冒頭の音の坎キ(ウ)の後に、ハーンは、初めて目を外の風景に向ける。「町の人たちの生活が始まる早朝の物音に起こされて、私は小さな障子を開けて朝の様子を眺め渡す」。

「緑の雲のような庭木の若葉」「青っぽい屋根がいやに目立つ家並み」このあたりから e 的描写が優位となってくる。もちろん印象的な

音、声はある。朝日に向かって柏手を打つ音、「ホーケキョー」と鳴く鶯うぐいすの声、ハーンの思念はそのまま法華經ほけきょうにおよぶ。そして、朝の活動が活発になる頃、大橋の上の、「大舞踏会の音響」のような下駄の響き。

だが「神々の国の首都」でも、これ以後、「東洋の土を踏んだ日」とも共通して、日中間こえてくる音の描写は非常に少なくなり、種類も限定されてくる。日中直接ハーンの耳にはいつてきた音として特徴的なものは、「おおかみ丸」と人々が呼ぶ小蒸気船の汽笛、他のライバル会社を凌しのぐためにやたらに音量を大きくしたその「想像を絶するほどの耳をつんざく怒り狂った叫び声」、量によって少しでも他より優位に立とうとするいわば近代の病を代表するかのような音である。あるいは、寺の並ぶ古風な趣を湛たえた通りに鳴り響くラッパの音、師範学校の生徒たちが日課の軍事訓練の行進をしているときの音である。いずれにせよこの昼間の音は、「近代」そのものを典型的に示す音であることは疑いない。

f

的描写の優位は、入日のときまで続く。しかし夜になると、これまで奪われていた権利を奪回するかのよう

g

的世界

が拡がっていく。それは先に触れた、夜になると鳴き始める虫とも同じである。「沼に住む大きな蛙たちの鳴く声にも似てにぎやかに騒いだり低く唸うなったりする音声が町の至る所から夜空のさなかへ立ちのぼる」。夜とともに「うーどんやい、そばーやい」「あめー湯」「河内かわちの国、ひょーたん山、恋の辻占つじうら」、物売りたちのさまざまな声が響き渡るのにハーンは聴き入っている。それは、昼の「近代」の音からはすでに外れかかった音でもあろう。

中でも印象的なのは、黄昏②が過ぎたとき、湖上の橋の上でひとりたたずむ女のつぶやきである。空と水との「境も定かではない薄暗闇」の中、女の指先から白い小さな物がひらひらと落ちていく。「女は何やら低いやさしい声でつぶやいている。死んだわが子のために祈っているのである」③。橋という此岸しがんと彼岸ひがんとを結ぶ象徴的境界を意識させる空間で、母親が亡くした子を弔うために、地蔵の絵と経文すが摺すられた紙切れを水の中に一枚ずつ落としていく。「南無地蔵大菩薩なむじぞうだいぼさつ」という称名しょうみやうを繰り返しながら。こうした現世から死者の世界へそのまま通じるような声が、ハーンの夜の耳を開くのである。

このように、日本滞在初期にも、すでにケンチョ①な夜と昼の対立が存在している。 h は昼の i に対して夜のリョウブン④に属している。そこでハーンが聴き取るのは、何よりも女性の声に代表される音だったのである。

そしてその音は、死者の世界との交流、過去との交流をなす境界としての音、いわば幽霊としての音である。虫であれ、女性の声であれ、音楽あるいは波の音であれ、ハーンが日本で特に注目する音の多くはこの性格を帯びてくる。ハーンの滞在初期の作品としては、「盆踊り」などの印象記の中にも、すでにこの特徴的な傾向は充分に確認できる。山陽から日本海に抜ける旅の途中通過した鳥取県上市うわいち（実際は下市）の夜の盆踊り、この

作品についてはすでに多くの論考があり、詳細には立ち入らないが、ハーンが記すその夢幻的な雰囲気、動作とそれを突き破るように響く若者の唄が読者に強い印象を与える作品である。現実とはまったく別の光景の中で展開されていくその夢遊病的仕草についてハーンはこう書く。

「今自分が見ているのは、遠い遠い太古のものだ。(…)この踊りこそ、数えきれないほど長い歳月の間にその意味が忘れ去られてしまった動作の象徴であるに違いない」(「盆踊り」仙北谷晃一訳)。夜、夢幻の雰囲気の中で、束の間、過去や死者たちの記憶の世界を現前させる仕草、無意識のうち人間が反復してきた動作、クローデルが夢幻能の舞台に与えた形容とよく似た形容をハーンはこの踊りに与えている。そして、踊りの歌も同じく、太古の連続性の上で捉えられる。「われわれ(西洋)の音楽言語の文字である音符をもってしても書き表わすことの出来ない、原始の歌」として。

私にはそれが、私一個の生命より無限に古いもののような気がする(…)あまねき太陽のもと、生きとし生ける万物の喜びや悲しみに
X を発するもののような気がする。(…)今宵のあの歌は、自然のもつとも古い歌とおのずからにして調和を保っている。さびしい野
辺の歌、あの美しい大地の声を形成する夏虫の翳々たる音楽と、知らず識らずの中に血脈を通わせている。

〈X〉という言葉は日本におけるハーンの耳の問題を考える上で重要なキーワードであるが、この引用の中にもすでに重要性の一端が窺える。ここでは盆踊りの歌と虫の歌が接近する。人の歌と自然との連続性が当然視されている。そして虫の歌は単に現在ではなく、遠い過去からの歌という象徴的意味を強く帯びている。ハーンが注目する音は現在の場に過去を現前させる音である。それは繰り返し返せば一種の「幽霊」としての音である。ハーンにとって幽霊は過去を現在に伝えていくものとしてきわめて重要な役割を果たす。こうした意味での境界としての音がつねに問題となってくるのである。

(内藤高『明治の音』より。一部改変・省略)

〔注一〕ラフカディオ・ハーン——ギリシャ生まれの作家(一八五〇—一九〇四)。一八九〇〔明治二三〕年に来日し、日本女性と結婚して小泉八雲と名乗った。『知られぬ日本の面影』『怪談』などの著作がある。

〔注二〕モース——エドワード・S・モース。アメリカの動物学者(一八三八—一九二五)。一八七七〔明治一〇〕年に来日、大森貝塚を発見して発掘調査をおこなった。

〔注三〕 按摩——身体をもみほぐして治療をおこなう人。

〔注四〕 ロチ——ピエール・ロチ（ロテイ）。フランスの小説家（一八五〇—一九二三）。海軍士官として世界各地を旅行し、紀行文や小説を発表した。日本滞在の経験を題材にした小説『お菊さん』などがある。

〔注五〕 クローデル——ポール・クローデル。フランスの劇作家・外交官（一八六八—一九五五）。一九二一（大正一〇）年から一九二七（昭和二）年にかけて駐日大使を務めた。

問一 傍線部(ア)～(オ)のカタカナに該当する漢字と同じ漢字を（傍線を付した部分の漢字表記に）含むものを、次の各群の選択肢①～④の中から

それぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は(ア)―15、(イ)―16、(ウ)―17、(エ)―18、(オ)―19。

(ア) キチヨウ

15

- ① 緊張して実力をハッキできなかつた
- ② 会社の経営はキキテキな状況に陥つた
- ③ 犯罪を検挙して罰金をチヨウシユウする
- ④ 新居のためにチヨウドヒンを買いそろえる

(イ) インエイ

16

- ① コウイン矢の如しごとということわざがある
- ② 政界にインゼンたる影響力をもつ
- ③ 名家のエイコセイスイを描いた小説を読む
- ④ この部署には少数セイエイを集めた

(オ)

リョウブン

19

- ④ この記事に関する一切のブンセキは筆者個人にある
- ③ 映画界のトップスターに関するシユウブンが世界に流れた
- ② 最大派閥のリョウシユウが次期首相に選ばれた
- ① 利害得失をコウリョウして最善の策をとる

(エ)

ケンチョ

18

- ④ 老後に備えて若い時からチョチクに励む
- ③ チョメイな学者を招いて講演会を開催した
- ② 彼女は勤務先の会社でチュウケンに属する
- ① バランス良く栄養がとれるようコンダテを工夫する

(ウ)

カンキ

17

- ④ 金メダルを獲得してキョウキランブする
- ③ リョウキテキな事件が世間に衝撃を与えた
- ② 円をドルにカンサンして物価を比較する
- ① 国会に証人としてカンモンされた

問二 空欄

a

く

i

にはそれぞれ、「聴覚」または「視覚」のいずれか一方が入る。空欄

a

く

i

のうち、

20。

① 四個

② 五個

③ 六個

④ 七個

問三 空欄

X

(二箇所とも同じ語が入る) にあてはまる語として最も適切なものを、次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は

21。

① 共鳴音

② 不協和音

③ 歓声

④ 残響

問四

傍線部①「昼の「近代」の音」に属さないものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は

22。

① 量によって優位に立とうとする音

② 軍事教練のラッパの音

③ 「大舞踏会の音響」のような下駄の響き

④ 「おおかみ丸」の汽笛の音

問五 傍線部②「黄昏」^{たそがれ}に関連して、次のうち空欄の中に「黄昏」の語が入る俳句はどれか。最も適切なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 23。

- ① を闇とは見せつ西の市
- ② によこれて涼し瓜の泥
- ③ 山里は汁の中迄^{まで} ぞ
- ④ 山は暮^{くれ}て野は の芒^{すすき}かな

問六 傍線部③「橋」という此岸^{しがん}と彼岸^{ひがん}とを結ぶ象徴的境界を意識させる空間」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 24。

- ① 橋は分断された二つの地域を結ぶ空間であるため、すべての人を受け入れてくれる場所と意識されること。
- ② 橋はこちら側とあちら側を結ぶ空間であるため、この世とあの世が接する場所とも意識されること。
- ③ 橋はこちらの岸とあちらの岸を結ぶ空間であるため、死者がよみがえる場所として意識されること。
- ④ 橋は分断された二つの世界を結ぶ空間であるため、すべての存在が通過していく場所と意識されること。

問七 傍線部④「血脈を通わせている」の説明として最も適切なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答

番号は 25。

- ① 夏虫の物悲しげな声が、夢幻能の舞台で聞こえてくる音の淵源^{えんげん}としてとらえられること。
- ② 死んだわが子のために祈っている女性の声が、悲しげに鳴く虫の声と自然に重なってくること。
- ③ 虫の声や盆踊りの歌が、西洋音楽と通い合うものとして心地よく耳に響いてくること。
- ④ 盆踊りの歌と虫の声が、ともに、遠い過去を現在に伝える役割を果たす原始の歌であること。

問八 本文の論旨と整合しないものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 26。

- ① モー스가朝の音風景を賑やかと感じたのに対して、ハーンは「物悲しい」と感じた。
- ② 幽霊としての音とは、過去を現在の中に出現させ、過去との交流を可能にする音である。
- ③ ハーンには、夜に聞こえる悲しげな女性の声が、死者を呼んでいる声のように感じられた。
- ④ ハーンが「この国が脈打つ鼓動そのもの」と感じたのは、夜明けに杵が臼を打つ音だった。

(下書き用紙)

国語の試験問題は次に続く。

三 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

「注二」ヒュームは、力が常に多数者たる被治者側にあるにもかかわらず、その「多数が少数によって支配される時のたやすさ」に注目しつつ、次のように述べた。

したがって、統治の基礎となるものはオピニオンを置いてほかにない。そしてこの格率「注二」は、最も専制的にして最も軍事的な政権にも、最も自由かつ最も民衆に開かれた統治とまったく同じように当てはまるのだ。

だが一言で「オピニオン」とまとめられているこの意志の主体は誰だろうか？ ヒュームは鋭く指摘する。

エジプトのスルタンやローマの皇帝であれば、おとなしい臣民を彼らの意見や意向に逆らって畜生のようにこき使うこともありえただろう。だが彼は少なくとも「注三」マムルーク兵や近衛兵たちについては、人間として彼らのオピニオンにもとづいて指揮を執っていたに違いない。

つまり、オピニオンが統治の基礎であり、被治者のオピニオンなくして支配が成立しえないのは一般的真理だとしても、あらゆる被支配者のオピニオンがすべて同じ重みをもっていたわけでも、同等に尊重されていたわけでもないのだ。「エジプトのスルタンやローマの皇帝」が軍人のオピニオンを重視したのは、当時は武力を操る人間の忠誠さえ獲得すればその他の被治者を従えることなど容易だったからである。武力と恐怖で支配できるならば、民衆のご機嫌取りをする必要はない。人語を話しても聞く者がいない以上、彼らは動物と同じである。

だが時代が変わって社会が豊かになり識字率が上がると、オピニオンに配慮しなければならぬ「人間」の数が増えていく。国家にとって無視しえない経済力を蓄えた集団が、洗練された説得力のある仕方での意見を表明し始めるのである。フランスでは一七世紀末から一八世紀末までに全体の識字率が人口の四分の一から半分近くまで、女性についても一四パーセントから四分の一に上昇した。同時期のイングランドでも男性の識字率は六割、女性が四割に達していたといわれている。字を読めるようになった人びとのあいだに印刷物が普及し、貴族にくわえて一般市民もコーヒーハウスやサロンで文芸や政治について議論を交わし始める。「注四」ハーバースというところの「a」の形成は、オピニオンの質と影

影響力を大きく向上させた。 b こそ持っていないなくても、こうしたパブリック・オピニオンはヨーロッパの各国で重視されるようになり、間接的にせよ政治を左右する力を入れた。一八世紀末のフランスでは、王権側も革命家たちも自分たちの正当性を主張するにはこのオピニオンを味方につけねばならなかったのである。

だが彼らは同時に、いかにオピニオンが予測しづらく御しがたいかを学ぶことになった。^{〔注五〕} ヴァレンヌ逃亡が国民のオピニオンを一変させ、革命家すら求めていなかった王権の転覆に繋がったことはすでにみた。同様の事例は日本史にも存在する。江戸時代末期、それまで最高権力の座に君臨していた徳川幕府の威信がシツツイし、反対にほとんどの庶民に忘れ去られていた天皇の権威が突如浮上する。三〇〇年間人々を平伏させてきた葵の御紋よりも、誰も見たことのなかった錦の御旗のほうを畏れるようになったのである。

一夜にして敵と味方、天と地が引つ繰り返るような大逆転さえ起こす力がオピニオンには備わっている。ただし、それを予測しコントロールすることは決して容易ではない。ナポレオンやナチスのように、プロパガンダを通じてオピニオンを操作する技術を空恐ろしいほどに磨いていった例もあるが、それが万能ではないこともまた歴史が証明している。多くの場合、権力が失態を犯したり玉座から転げ落ちたりすると、夢から覚めるようにプロパガンダの効果は薄れオピニオンを失ってしまうのだ。

オピニオンの主体が時代とともに拡大し影響力を増していったことは、彼らが支持する正当性理論にも反映された。 c の理念のもとオピニオンは選挙として制度化され、国民という単位に統一されると同時に、直接政治に作用するようになった。 d であろう。もちろん、依然として間接的な影響力も失っておらず、選挙以外で一般市民が政治的発言をする場合は情報産業の発達とともにますます広がっていく。

二〇世紀に入ると、オピニオンは国政ばかりか国際世論として国際政治にも働きかけるまでになった。不戦条約の成立についてもアメリカおよびヨーロッパの世論の後押しが大きく作用したこと、それは戦争違法化を訴える最初期から、運動家たちが意識してオピニオンを動かそうとした努力の結果だったことは、ハサウェイとシャピーロのみならず牧野雅彦および三牧聖子も指摘している。

そして二一世紀の現在、国内はもちろん国外の市民との交流や連携さえ容易にしたインターネットおよびSNSの普及が、^② その傾向にハクシヤをかけたことは疑いの余地がない。一方、意見表明と交換の回路が多様化したことでオピニオンの主体はさらに拡大し、政治に対する影響の与え方もオピニオン同士の相互作用も複雑になった。

このことは、一見デモクラシーを利するばかりのようにも思える。実際、「人間」として扱われる集団がマムルーク兵から国民全体に広がったこ

とは、国民の負託^(b)を受けオピニオンに配慮する政府の決断に対し、これまでにないほどの正当性を与えることになった。そしてそれがさらに国民のオピニオンを集め、国民国家という政治単位の統一性を高めたのである。だが同時に、それは多様な立場と価値観の「人間」を内部に抱え込むことでもあり、意志の統一はかつてよりはるかに困難になったともいえる。⁽³⁾物事には必ず両義性があり、どちらに転ぶかは必然的には決まらない。

コミュニケーション技術の進歩は、それまで国内で大きな運動を生むことが難しかった少数派に距離や国境を越えた連帯を可能にし、さまざまなマイノリティの声を可視化しつつある。地球環境にまつわる問題提起も、腰の重い国家や企業を飛び越えて一市民の発言や活動が直接世界中に伝わることで、大規模なオピニオン形成を実現している。

だが他方、SNSは情報源の多様化によってエコーチェンバー化⁽⁴⁾しており、ある価値観を持つコミュニティに加わるとそれを強化する情報ばかりを与えられ、多角的な視野を失うことにもなっている。フェイクニュースや監視技術の発達による情報操作は、それを一部の人間が望む方向へと誘導し加速させようとする。結果、市民間の対話は絶望的になり、オピニオンが修復不能なまでに分断されてしまう。

このような分断が特定の分野のみで単発的に起きているなら影響は限定的だが、政治そのものが党派的になり、分断をコウジヨウ的に反映するようになれば、「人間」を「国民」に束ねて意思決定を担っていたデモクラシーという政治制度の正当性自体が揺らぐ。オピニオンの分断はデモクラシーの危機となりうる。

したがって、現在われわれが手にしているオピニオンという武器は、いまやわれわれにとって諸刃の剣ともいえる。声を上げることが連帯を生むか断絶を生むか、それによってデモクラシーの未来も政治の意味も大きく変わるような分岐点がここなのかもしれない。だがそうであればこそ、われわれがどちらを望むのかはこれまでになく重要になるだろう。理論の力が及ばず、必然的な帰結もみえず、両義性に引き裂かれているところでオピニオンは働く。ゆえにオピニオンには現実を動かす力が備わっているのであり、そこに賭けるシステムがデモクラシーなのである。

(堤林剣・堤林恵『オピニオン』の政治思想史——国家を問い直す』より。一部改変・省略)

〔注一〕 ヒューム——デービッド・ヒューム。スコットランドの歴史家、哲学者、政治経済学者（一七一―一七七六）。

〔注二〕 格率——論理における原則を簡単に言い表したもの。

〔注三〕 マムルーク兵——エジプトなどで採用されたトルコ人の奴隷兵士。彼らの中には軍団長などに抜擢され権力を握る者もいた。

〔注四〕 ハーバースマス——ユルゲン・ハーバースマス。ドイツの哲学者、社会学者（一九二九―）。

〔注五〕 ヴァレンヌ逃亡——フランス革命の時代、国王ルイ十六世一家がオーストリアに逃亡をはかり、ヴァレンヌで捕らえられてパリに連れ戻さ

れた事件。

問一 傍線部(ア)～(ウ)のカタカナに該当する漢字と同じ漢字を(傍線を付した部分の漢字表記に)含むものを、次の各群の選択肢①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は(ア) 27、(イ) 28、(ウ) 29。

- (ア) シツツイ
- 27
- ① シツチを埋め立てた場所は水はけが悪い
 - ② 周囲をシツコクの闇が包んでいた
 - ③ 大統領の乗った飛行機がゲキツイされた
 - ④ ヨウツイを傷めて寝たきりの生活になる

- (イ) ハクシヤ
- 28
- ① 演奏が終わると聴衆は総立ちでハクシユした
 - ② 多数派による少数民族のハクガイがおこなわれた
 - ③ 反乱に加わった者はヨウシヤなく処刑された
 - ④ 成熟期が過ぎ需要が減少している産業をシヤヨウ産業という

- (ウ) コウジヨウ
- 29
- ① 毎年コウレイの新年会が開催された
 - ② 裁判を不服として高等裁判所にコウソした
 - ③ 大安売りでヨジヨウ在庫を処分した
 - ④ 短時間の外出でも必ずセジヨウするべきだ

問二 傍線部(a)～(c)の表現の本文中の意味と最も近いものを、次の各群の選択肢①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は(a)―、(b)―、(c)―。

(a) 御しがたい

-
- ① 自分たちの味方にするのが不可能だ
 ② よい結果が出ることは望めない
 ③ 思い通りに制御するのがむずかしい
 ④ 正当性があるかどうか判断しにくい

(b) 負託

-
- ① 選挙を通じ政治的課題について意見を表明すること
 ② 責任を引き受けさせたいうえで政治を委ねること
 ③ 政治家の自由に任せて結果の責任を問わないこと
 ④ 社会が良くなることを期待して政権を支持すること

(c) 諸刃の剣

-
- ① 世の中を変えてしまうほどの打撃を与える可能性があること
 ② 非常に役に立つ一方で、大きな害を与える可能性があること
 ③ 人々の間の連帯を断ち切って社会を分断してしまう可能性があること
 ④ 現在の状況が場合によっては両極端に変動する可能性があること

問三 傍線部①「多数が少数によって支配される時のたやすさ」の説明として最も適切なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 33。

- ① 最初は少数のオピニオンだったものが意図的な操作によって結果的に多数のオピニオンに変わっていくことは、よくあるということ。
- ② 独裁者は被治者のオピニオンに耳を傾けなくても、強大な武力と恐怖によって多数の被治者を簡単に支配できるということ。
- ③ 民衆のオピニオンを味方につけることによって、エジプトのスルタンやローマ皇帝は容易に国を支配できたということ。
- ④ 権力者は被治者のオピニオンの支持を得ることによって、数の上でまさっている被治者を容易に支配できるということ。

問四 空欄

a d のそれぞれに入る語句の組み合わせとして最も適切なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 34。

- ① a—代議制デモクラシー b—参政権 c—国民主権 d—市民的公共圏
- ② a—代議制デモクラシー b—国民主権 c—参政権 d—市民的公共圏
- ③ a—市民的公共圏 b—参政権 c—国民主権 d—代議制デモクラシー
- ④ a—市民的公共圏 b—国民主権 c—参政権 d—代議制デモクラシー

問五 傍線部②「その傾向」の説明として最も適切なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は

35。

- ① 人間として扱われる集団が国民全体に広がるようになったこと。
- ② オピニオンが国内だけではなく国際的にも影響を与えるようになったこと。
- ③ 国外の市民との交流が国内のオピニオンに影響を与えるようになったこと。
- ④ 選挙として制度化されたオピニオンが直接政治に作用するようになったこと。

問六 傍線部③「物事には必ず両義性があり」とあるが、ここでの「両義性」の具体的な内容の説明として最も適切なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は

36。

- ① インターネットの普及で誰でもオピニオンを発信できるようになったが、フェイクニュースが拡大しやすいという負の側面もあるという点。
- ② 国内のオピニオンは国民国家の統一性を高める役割を果たすが、一方で国際社会で孤立を招きかねないという負の側面もあるという点。
- ③ オピニオンの規模が大きくなり国際政治まで動かすようになったのはよいことであるが、国内政治がおろそかになるという負の側面もあるという点。
- ④ オピニオンの主体が拡大したことによりデモクラシーの正当性は強化されたが、意志の統一が難しくなったという負の側面もあるという点。

問七 「エコーチェンバー」は「反響室」という意味であるが、傍線部④「エコーチェンバー化」とはどのような現象か。その説明として最も適切なものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 37。

① 似た意見や思想を持った人々がSNSで結びついて意見を発信すると、発信者に近い立場の意見ばかりが返ってきて、反対意見に触れる機会が少なくなる現象。

② SNSで極端な意見を発信すると、それが注目を集めて急速に拡散されることにより、反対意見を封じ込め、世論の流れを大きく変えてしまう現象。

③ 狭いコミュニティの中でSNSを使って意見を発信すると、排除されることをおそれる心理が働いて同意への圧力が高まる結果、コミュニティ全体が同じ意見になっていく現象。

④ SNSでフェイクニュースが流されて世界中に広がるのが繰り返された結果、自身へのオピニオンの支持を拡大するためにフェイクニュースを利用しようとする政治家が各地で現れている現象。

問八 本文の論旨と整合しないものを次の選択肢①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 38。

① 識字率の上昇によって一般市民も知識を得て政治について議論するようになり、彼らのオピニオンが政治を左右するようになった。

② コミュニケーション技術の進歩により大規模なオピニオン形成が行われ、マイノリティの声は無視されることが増えた。

③ フェイクニュースなどによる情報操作はオピニオンを分断し、デモクラシーという政治制度の正当性自体を揺るがしうる。

④ 日本では、幕末において徳川幕府に代わり天皇の権威が確立される過程で、オピニオンが重要な役割を果たした。